南小だより　R３．５．２４

南　風

＜　令和３年度　第　４　号＞
発行：玉村町立南小学校
群馬県佐波郡玉村町角渕5011
電話：0270-65-9000
http://www.town.tamamura.ed.jp/minami-e/

南小の朝行事（8：30～8：45）を紹介します

《体育集会》

※ ▢ 内は活動のねらいです。

・健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。
・みんなで運動を親しみ、日常の運動遊びにつなげられるようにする。

校庭での整列の仕方、体操の隊形の開き方、サーキットトレーニング、ランニングやなわとびなど様々な運動を取り入れながら、子どもたちの体力向上と運動意欲の高揚に努めていきます。

（以前の写真です）

《オアシス活動（縦割り活動）》

・異学年の友だちとの活動を通し、互いに認め合い支え合うことができる関係を築くとともに、集団の一員としての自覚を高める。

室内や校庭でできるレクリエーション、ボランティア活動、行事に向けての準備等を行います。上級生が下級生を面倒見ながら、異学年で交流する活動は、思いやりの心やコミュニケーション能力の育成にもつながるものであり、南小の特色ある活動の一つです。第１回はメンバーの自己紹介を行いました。

《児童集会》

・異学年の児童同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営する。
・自主的、実践的に取り組むことを通して特別活動の目標に掲げてある資質・能力を育成することを目指す。

児童集会は各委員会の発表を中心に行っていきます。１回目は、感染症予防のため一堂に会せずにテレビ放送での発表でした。学級委員会からは生活目標の連絡があり、飼育委員会からはウサギの飼育についてビデオ動画で発表してくれました。

《音楽集会》

・みんなで歌い合わせることによって生まれる豊かな表現や楽しさを体験させるとともに、学級や学年を越えた仲間との輪を育む。
・様々な曲を歌ったり楽器を演奏したりして、よりレパートリーを広げ音楽を通して潤いのある生活にする。

感染症予防のため、５月の集会（校歌の練習）は見送りました。６月の集会では感染状況を考慮しながら実施可能な活動を行いたいと思います。

（以前の写真です）

新型コロナウイルス感染症に対する対応について

既に通知されておりますが、玉村町が「まん延防止等重点措置」の対象区に指定されたことを受け、学校も一層の危機感を持って対策を行っていきたいと思います。
また、変異株による若年層への感染の拡大、家庭内感染の増加等が報じられておりますので、ご家庭でも予防対策の継続と徹底をよろしくお願いいたします。

【小学生の勉強法】子どものモチベーションを上げる関わり方

小学校、それははじめて「学び」というものを本格的に教わる場であり、お子様にとっては毎日が大事な授業の連続となります。この時期は、後の中学・高校・大学へと続く「土台」とも言える時期であり、ここで学んだ事が後に生かされていくとても大事な時期なのです。では、しっかりと学んでもらうために、どのように学習を促せば良いのでしょうか。今回は、小学生の学習についてのアドバイスをお伝えしていきましょう。

＜日常生活とのリンク＞

勉強はなぜしなければならないのか？これは子どもの時に非常に多くの子供が勉強に対して抱く感情ですね。しかし、そういった気持ちも大人になってみると、「もっと勉強しておけばよかった」という後悔に変わることが多いようです。それくらい大人になると日常生活と勉強がリンクしていることを痛感するものです。それをしっかり子供が分かるように伝えてあげることが非常に重要になってきます。例えば、算数は人間が生きていく上で非常に基本的なものであり、計算と生活は切っても切れない関係にあります。たとえ計算機を使おうとも、計算するための式が立てられなければ、計算機だって無用の長物です。国語も新聞を読んだり、報告書を書いたりするのに国語力が必要になってきますし、なにより生活は言葉なくして成り立ちません。社会だって、世の中の流れ・動きをしっかりとらえていくために覚えておかなければならない知識が詰まっています。そう考えていくと、小学校で学習する内容は大人の世界で使う知識ばかりなのです。より分かりやすく見せるために、家計簿を見せながら算数の授業に当てはめてみても面白いかもしれません。新聞を使って漢字や社会の勉強を一緒にしてもよいでしょう。また、新聞に載っているエネルギー問題や温暖化と理科の授業を合わせるのもいいですね。子供は「なぜ？」が解消されるとモチベーションアップしやすいものです。是非それをトライしてみてください。

＜上から下ではなく横並びで＞

よくある促し方に「勉強しなさい」「宿題やるまでテレビ見ちゃだめ」といった「上から下」へのトップダウン方式のやり方がありますが、これはあまり得策とは言えません。子供も大人も同じで、上からガミガミと言われるだけでは、なぜやらなければいけないのかが納得できませんし、なによりモチベーションが上がりません。そこで視点を「子供の上に自分がいる」というものではなく、「子供と寄り添いながらいる」というものにシフトしてみませんか？具体的な言葉としては「お母(父)さんと一緒に宿題やってみようか」「お母(父)さんもお掃除頑張るから、〇〇ちゃんも宿題頑張って競争しようか」など、「一緒に取り組む」というものです。そうすれば子供も「なんで自分ばっかり」という理不尽な印象が払拭され、動きやすくなります。また、自身も資格などの勉強を始めるのも良いかもしれません。そうすれば「お母(父)さんもお勉強頑張ろうっと！」というように「親の背中」を見せることが出来、それを見た子供は「自分もやろうかな」という気持ちに向かいやすくなります。

また、難関大学合格者がよく語るような「リビング学習」というのがこのやり方には最適かもしれませんね。やはり自分の部屋にこもられてしまっては、中で何をしているのかが見えにくくなりますから、親の目の届く範囲で勉強をさせるのが最も効率的でしょう。子供も「お母(父)さんが見てくれているから頑張ろう」という励ましにも似た気持ちを覚えることでしょう。

＜以前の「南小だより」から再掲＞